



みうらりサイクル  
株式会社 ワークスワーク

代表取締役

## 為永 健太郎

「胸が張り裂けるようなつらい経験をした時こそ、人が変わる時」——  
対談中、過去を振り返りながら為永社長はそう口にした。  
必死に事業に取り組む中で、周囲に目を向けられず、人を大切にできなかった。  
その苦い経験は、社長が大きく成長するきっかけとなった。  
経験から学び、次に活かす。社長が真摯に仕事と向き合っているからこそできることだ。  
そうして社長は、これからも前向きに歩み続けていく。

(対談記事は 42 ~ 43 頁に掲載)

**「失敗もたくさん経験しました。  
その中で得た学びは、財産です」**



## 様々な経験を通して得た糧を活かし 未来を見据えて歩み続ける

片付けや遺品整理などを行う『みうらリサイクル』や、建設業をメインに手掛ける『ワークスワーク』を経営する為永社長。自身の失敗や経験から学びを得ながら、着実に事業展開を進めてきた。本日は、そんな社長のもとをタレントのつまみ枝豆氏が訪問し、その半生から今後の展開などを伺った。

—こちらには、色々な物が置かれていますね！ 絵やフィギュアなどもあって、見ていて飽きないです。

当社では、不用品回収として様々な物をお引き取りしております、これらはその一部です。家具や家電、食器、衣類、寝具、雑貨など様々な不用品に対応しております。不用品の処分は大変な作業ですから、少しでも皆様のお役に立てたら

嬉しいですね。

—為永社長は、何故このお仕事をされようかと？

私の経歴に沿ってお話させていただきますと、学業修了後は北海道にある携帯電話や光通信の販売会社に入社しまして、代理店の管理や営業活動を担当しておりました。その後、Web関連の事業が伸びてきたことを受けてIT企業の営業職

に転職。人と話すことは得意ではなかったのですが、結果としてそれが相手の話を聞くことにつながり、お陰様で役職も任せていただけるようになりました。本社に異動して、会社の上場にも携わるなど、様々な経験をさせていただきました。しかし、14年前に父が亡くなり母が一人になってしまったため、北海道に戻ることにしたのです。そして、いずれ独立

みうらリサイクル  
株式会社 ワークスワーク

北海道札幌市白石区本通3丁目北2-9  
本通北3ビル1F  
URL : <https://www.miurarecycle.jp/>

### Column

▼対談中、過去を振り返り、為永社長は次のように語った。「リサイクル業を始めたばかりのころは、とにかく仕事を取るのに必死で、働いてくれている方のことを考えられていませんでした。『こんなに忙しくてはやってられない』と、その場で帰られてしまったこともあります。その時は、一人で泣きながら（笑）作業をしましたね。」

▼そうした経験を経て、社長は働いてくれている人への感謝を常々大切にしているという。建設業を手掛ける『ワークスワーク』を法人化したのも、福利厚生を整えたいという思いからだった。

▼同じ轍を踏まないように自身の行動を反省し、次に活かすその姿勢は、社長の大きな力と言えよう。



—古本の回収から新たなビジネス展開に気づき、実際に行動に起こされた。素晴らしい行動力ですね。

ありがとうございます。とはいえ、失敗もたくさんしました。損をしたこともありますし、何よりも人を大切にできていなかった。“企業は人なり”と言いますが、私は自

分や会社のことで精一杯で、働いてくれている方々のことを考えられていなかったのです。というも、常に仕事があるわけではなかったので、継続的に人を雇うのが難しかったのです。しかし、私はただただ営業をして無理に仕事を請け負ってしまいました。そして、来てくれた人材を酷使してしまい、人が定着しなかったのです。それを反省したことが、リサイクル業以外の事業に着手するきっかけとなりました。別の事業柱があれば、安定して人を雇えるようになりますし、適材適所で一人ひとりの能力を活かすこともできますから。

—独立当初はどのような事業を？

IT企業での経験を活かして、ネット古本屋をスタートしたのです。何千軒というお宅から古本を買い取り、ネットで販売するというものでした。現在ではよく見るかたちですが、その当時は珍しかったと思います。そうしてたくさんの買い取りをしているうちに、片付けのニーズが多いということに気づいたのです。遺品などを整理したいものの、時間もないし作業も大変ということで、困っている方が多くいらっしゃったのです。そこから、片付けに関わるビジネスをスタートしたのです。それが、『みうらリサイクル』の始まりです。

—言われてみれば、遺品整理という言葉聞くようになったのも最近のことですね。

ええ。ですから、スタート時はどういう仕事か知っていただく所からでした。それでも、ニーズは高かったので、不用品回収を始めてから業績は右肩上がりでした。

—良いお考えだと思います。他の事業というのは、どのような？

ある時、マンションの内装を解体した廃材を片付けてほしいというご依頼が

あったのです。実際にやってみると、これは当社で手掛けている仕事と似ていると思いました。それに、建設業界は人手不足だと聞いていましたから、少しでもお力になればとの思いもありましたね。それで、各種建設工事やプラント工事を手掛ける『ワークスワーク』をスタートしたのです。

—失敗から得た学びをどんどん活かしておられるのですね。常に先々を考えながら仕事と向き合っておられることが伝わってきます。

胸が張り裂けると言いますが、つらい経験をした時こそ、人が変わる瞬間だと思います。今は、働いてくれている方々が生活に困らないように会社を守っていくことが大切だと思っています。それもあって、従業員の方々が生涯にわたり、本人が希望するような仕事を続けていけるような環境作りに努めていきたいと考えております。実際、当社では若いメンバーだけでなく、70代の方も活躍しております。シニア世代の方々に活躍していただけると、人手不足の解消にも繋がりますから、会社としても大変助かっている所です。ですから、今後も20代から70代まで、幅広い年齢層の方々が安心して働けるような体制作りを進めていきたいですね。

(2023年7月取材)

「ご自身の失敗を真摯に受け止めて、経験を次に活かしておられる為永社長。その姿勢は、本当に大切なことだと思います。真面目なお人柄でありながら、フィギュアや絵を飾ってみたりなど、楽しむ心を忘れない。社長のように、純粋に仕事に取り組んでおられる方は他になかなかいらっしゃらないと思いましたね！」 つまみ枝豆・談

